

山口大学との職員間交流および施設見学の実施報告

工作部門 林 祐太, 松山 利和, 藤沢 豊樹

1.はじめに（目的等）

山口大学総合技術部製作技術課の方々からのお声掛けを受け、一昨年度から工作部門では複数回に渡ってお互いの業務内容について情報交換を実施している。オンラインでの情報交換の他、山口大学から広島大学へは実際にご訪問いただく機会が2回あり実際に施設の見学などを通して実態の部分に触れた形で業務を紹介させていただいてきたが、広島大学から山口大学へ伺う機会を作っていなかった。今までご説明いただいた内容を実際に見て、現地で質問しながら職員間の交流や技術的な情報交換を行うことを目指し、部門内の有志で学外研修を企画・実施した。

2.日時・場所

日時：2025年5月7日（水）10：30-17：00

場所：山口大学 常盤キャンパス（山口県 宇部市）

3.参加者等

山口大学技術職員：現地13名，オンライン10名

4.内容

午前は広島大学の紹介として、工作部門の業務紹介を林が代表して発表を行った。発表内容としては、以前までの交流で業務の概要を説明したことがすでにあつたため、昨年度から部門内で実施している協働体制のための業務への対応などを個人の取り組みをベースとして部門全体の状況を共有させていただいた。工作関係以外を専門とする技術職員も参加されており、様々なご質問・ご指摘をいただく機会となった。

午後は主に施設の見学を通して、具体的な業務内容をご説明いただいた。ものづくり施設としては、学生への工作実習や依頼による装置・部品の製作を実施されている機械工作工房の他、3Dプリンタやレーザ加工機などデジタルファブリケーション機器を各種揃えた「志」イノベーション道場や山口大学外ではあるものの隣接しており職員間の協力関係を持つ宇部高専の実習工場を、土木系の支援施設としては、水理実験棟、地盤研究室、輪荷重走行試験機、材料実験室、測量準備室など3名の技術職員で幅広く対応されている各設備や試験機などを見学させていただいた。翌日に学生実習で使用するための授業準備の様子なども一部見る事ができた。

参考として見学時に撮影した写真の一部を以下に示す。



写真は左から、①機械工作工房の機械に取り付けたオイルミスト装置、②区画化され整備された宇部高専の実習工場、③輪荷重走行試験機、④授業準備した曲げ試験用のモデル材

5.まとめと感想

今回の出張は、計画されたイベントに参加するものではなく、山口大学との相談の中で自分たちの見たいもの・知りたいことを教わることができるように企画したものである。今までであった他大学を訪れる機会は8・9月もしくは3月といった学生の休暇期間に行われる研修や研究会に併せたタイミングしかなかったが、今回は授業なども含む普段の業務の様子を見たいということ要望させていただいたこともあり、山口大学の皆様にはご負担をお掛けしたことと思いますが、様々なことを知ることができ、非常に多くの得るものがあった。

参加者の感想をそれぞれ以下に簡単に報告する。

- ・ものづくり系の施設のイメージとしてスタイリッシュという言葉は何度も現地でも使わせていただいたが整理整頓された環境や作業の効率化の工夫が多数見られ、非常に興味深い点が多くあった。全てを取り入れることは難しいが、まずは工具の貸し出しなどのデジタル化といった点と上記で写真も記載しているがオイルミストを利用できるような工夫について自分で調べながら真似ができればと考えている。（林）

- ・今回の山口大学訪問では私たちが実施している協働体制の説明やそれに関する質疑を含めて山口大学の技術職員と意見交換ができた。施設見学では山口大学の強みでもある地盤工学研究室や構造力学研究室を案内してもらい、他大学で行っている実験の様子など見ることができた。実験棟や測量準備室がきれいに整頓されていることや粉じん対策などの作業環境への配慮などお手本となるような環境だったので、今回の見学で得られたことを本学での実験環境の改善や、実験・研究の実施方法などに活かし、改善報告も含めて今後も交流を深めていきたい。（松山）

- ・今回は機械と土木の実験棟内を見学させてもらった。他大学に行き意見交換や見学を行う機会があまりなかったため、勉強になることが多くあった。整理整頓の工夫など、自分たちの実験棟でも行うことができるものを試していき、よりよい実験環境を作っていきたいと感じた。山口大学の技術職員の方たちと交流することができ、とても充実した見学になった。（藤沢）